

# けんぽく

第12号[平成26年11月号]



平成26年11月28日発行  
「食」と「ふるさと」  
新生運動ニュース

編集・発行 福島県北農林事務所

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。

## ◆「県北地方鳥インフルエンザ防疫演習」を開催！

平成26年11月21日（金）、福島市吉井田支所及び学習センターで県北農林事務所主催の「県北地方鳥インフルエンザ防疫演習」を開催しました。

この演習は、管内での鳥インフルエンザの発生を想定し、初動防疫に必要な業務について研修するとともに、実際の防疫作業を体験し、現地対策班の対応能力と関係機関の連携強化を図ることを目的としたもので、家畜生産者と関係機関担当者約90名が参加しました。

防疫演習は、研修と体験型演習の2部構成で行い、午前中は鳥インフルエンザの特性、発生における対応等について研修し、午後は実際に検診、防護服の着用と脱衣、車両の消毒、殺処分等を集まった皆さんに体験してもらいました。

殺処分演習では、鶏の模型をケージからポリバケツに移して炭酸ガスを注入する作業を行い、参加者は実際に発生した場合を想定して真剣に取り組んでいました。

今年、4月に熊本県の農場で鳥インフルエンザが発生、その後も鳥根県、東京都及び宮城県で鳥インフルエンザに罹患した野鳥が確認されるなど、これまで以上に緊張感を持って発生を警戒する必要があります。

農場での発生を防止するため、生産者に防疫対策を呼びかけるとともに、もし発生した場合には迅速に対応できるよう関係機関皆様の御協力をお願いいたします。



鳥インフルエンザの特性について研修



防護服を着て殺処分演習

(農業振興普及部)

## ◆みんなあつまれ！森林のクラフト

平成26年10月25日（土）、26日（日）に福島県林業研究センターで開催された第39回福島県林業祭において、福島県林業職員の有志が集まり「みんなあつまれ！森林のクラフト」と題した森林PRブースを出展しました。

出展内容は、リースづくり、野生動物の毛皮や剥製の展示、折り紙の3種類。

リースの材料は、職員が県内各地の森林から集めてきたものです。クズのツルや松ぼっくり、どんぐりなど身近な材料で作るリースは、子どもから大人まで大人気！一足早いクリスマス気分を味わったようです。

また、普段はあまり目にする機会のない野生動物の毛皮や剥製に足を止める人も多く、手触りの違いを確かめたり、説明に熱心に耳を傾けたりしていました。

折り紙も、子どもたちに人気で、森林のどうぶつたちやトトロなどを折って楽しんでいました。

この出展を通して、松ぼっくりやどんぐりにもたくさんの種類があることや、森林の生き物たちのことなど、一般の人にも福島県の森林の多様性を知っていただく機会になったのではないかと思います。今後も、多くの人に福島県の森林に興味を持っていただけたらと思います。



リースづくり。上手にできたよ！

(森林林業部)



◆～高校生へ農業の魅力を伝える～  
「フレッシュ農業ガイド講座」を開催！

平成 26 年 11 月 17 日(月)に、安達東高等学校農業コースの 2 年生を対象とし、安達地域農業青年クラブ D” ATCH 会員との交流を通じ、農業に対する意識啓発を図るため、「フレッシュ農業ガイド講座」を開催しました。

当日は、D” ATCH の活動や福島県農業総合センター農業短期大学の紹介のほか、D” ATCH 会員のマルカリんご園及び道の駅ふくしま東和で研修を行いました。

マルカリんご園では、経営状況、農業に対するこだわりの話を伺い、その後、りんごの収穫体験を行いました。また、マルカリんご園では特別栽培に取り組んでおり、高校生は、環境と共生する農業についても理解を深めていました。

その後、道の駅ふくしま東和の会議室で、D” ATCH 会員 2 名により、農家を志した理由、今後の夢などについての講話を行いました。意見交換では、高校生の時の農業のイメージと、就農してからのギャップなどを聞かれ、D” ATCH 会員 4 名が各々の農業に対する想いを述べました。

高校生からは、「原発の影響があるのに、若い農業者がこうして頑張っている姿を知って、すごいと思った。」との感想があり、農業を身近に感じることができたようでした。

進路決定時期を控えている高校生が、地元の農業に触れることで、より一層農業の魅力を感じてもらい、農業という職業が将来の選択肢の一つになることを期待します。



真っ盛りのりんご「ふじ」の収穫を行いました



D” ATCH 会員による講話の様子

(安達農業普及所)



◆農道・水路整備の実施に向けた真剣な議論が行われました！

平成 26 年 10 月 20 日(月)、伊達市保原町柱田東地区の四十九院集会所において、復興再生基盤整備事業(柱田東地区)の推進母体である柱田協議委員会との合同で、今後の農道及び排水路工事に係る人を対象に工事等の説明会を開催しました。

柱田東地区は、ももやかきなどの果樹生産が盛んな地域ですが、地形が急勾配な上、土質が砂質土壌により崩れやすいことから、放置しておくで大規模な崩壊を起こすおそれがありました。このため、平成 20 年度から素掘水路のライニングや砂利道の舗装工事を実施しており、平成 26 年度現在の工事進捗率は約 80%となっています。

このような状況の中で、今回は、平成 28 年度の農道及び排水路工事計画について説明を行い、細部にわたる真剣な議論が行われました。

農道計画については、「急なカーブにおける車の走行安全は十分確保されるのか」、水路計画については、「曲がり箇所において水は溢れないのか」等々の質問や意見が出されましたが、施工計画の安全性を丁寧に説明し、御理解をいただきました。



ここは、どうなるのかな？



りっぱになるんだね！ 待ち遠しいね！

(農村整備部)





◆「平成 26 年度 内ノ馬場区鳥獣被害対策研修会」を開催！

平成 26 年度 11 月 13 日（木）に伊達農業普及所主催、桑折町、桑折町有害鳥獣対策協議会及び内ノ馬場町内会の協力により「平成 26 年度内ノ馬場地区鳥獣被害対策研修会」を桑折町南半田の内ノ馬場公民館で開催しました。

内ノ馬場地区は、従来からニホンザルやツキノワグマによる農作物被害が発生していましたが、最近では、イノシシによる農作物被害の発生・増加が問題となっています。

そこで、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センターで鳥獣被害対策研究に従事されている藤本竜輔研究員を講師に招き「イノシシの生態と被害防止対策」について御講演いただきました。

また、伊達農業普及所からは、「ICT 技術（センサーカメラ）の現地実証事業の成果」や「地域ぐるみの対策」について解説を行いました。

研修には、地区住民を中心に 34 名と、多くの方が参加しました。参加者は、「なぜイノシシが増加するのか」、「無意識であっても落下果実を放置するなどして餌付けをしない」、「守りたい作物はきちんと電気柵等で囲う」などイノシシの生態やその対策について、真剣な様子で傾聴していました。また、地区内に設置したセンサーカメラで捉えられた野生鳥獣の姿に、驚きの声が上がっていました。

講演後には、イノシシの行動や電気柵を効果的に設置する際のコツについてなど、質疑応答も活発に行われました。

今回の研修をきっかけに、内ノ馬場地区で地域ぐるみの鳥獣被害対策が進展するよう、また、この取組が周辺地域に波及するよう、今後も桑折町や桑折町有害鳥獣対策協議会など関係機関と連携し、支援を継続していきたいと考えています。



研修会の様子



センサーカメラでとらえたイノシシの姿  
(伊達農業普及所)

◆福島市の「もも」を使った料理ができました！

平成 26 年 10 月 31 日（金）福島市飯坂町の飯坂学習センターで、「ふくしま発酵文化研究会」（事務局：一般社団法人福島市観光コンベンション協会）が主催する「もも料理」のお披露目と試食会が、開催されました。

全国的に活躍される食総合プロデューサーの金丸弘美さんと料理研究家の馬場香織さんの指導の下、発酵文化研究会のメンバーでもある女性起業研究会の方々が作ったものの料理が並びました。

テーブルに用意されたのは、オープンサンドなどの前菜、冷製スープ、プルコギや鶏唐揚げ、カレーなどのメインディッシュ、ももの白玉やタルトなどのデザート、飲み物としてサングリアやカクテルまで、その他にももの酒粕和えや生春巻き、水キムチなど 30 品目にも及び、まさに洋の東西を問わないももづくしの料理の数々です。

参加された皆さんは、予想以上にたくさんの「もも」料理があることに驚きながらも、一つ一つ試食しながら、味や見ばえなどを評価してアンケート用紙に記入していました。

また、併せて、平成 27 年 6 月に「第 8 回全国発酵食品サミット」が福島市で開催されることが内定した旨発表されました。

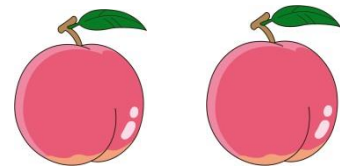


金丸弘美さん(中央)と女性起業研究会の皆さん



並んだもも料理の数々

(企画部)



**福島県酪農業協同組合県北支所**

酪農復興に力を注いでいます！

**【組織ビジョンスローガン】**

私たちは、地域とともに誇りと自信を持っておいしい牛乳を生産し、消費者へ「いのちの温もりと幸せ」をお届けします。

**【活動内容】**

県北支所管内では原発事故の影響で、現在でも7戸の酪農家が休業を強いられていますが、安全で安心して飲んでいただける生乳生産体制の確立のため、自給粗飼料生産圃場の確実な除染を支援するとともに、収穫飼料の給与前検査体制を強化しました。

さらに、風評による消費低迷を払拭するため、平成26年9月14日（日）にあづま総合運動公園・巨石広場において「ふくしま酪農まつり」を、9月28日（日）には酪王乳業株式会社の工場で「酪王まつり2014」を開催し、多くの住民との直接交流により、乳製品に対する理解醸成に努めました。

また、学校へ乳牛を連れていき、子供たちに搾乳体験や仔牛と触れあってもらう「も～も～スクール」にも取り組み、「いのちの温もりと大切さ」に気付いていただく授業を実施しました。



「ふくしま酪農まつり」の様子



「酪王まつり2014」の様子



「も～も～スクール」 搾乳体験



「も～も～スクール」 仔牛とのふれあい

## けんぼく6次化ミーティング 第1回交流会

～くだもの加工で新たな6次化商品～

「生産している農産物の新たな加工品開発を検討したい」、「商品開発や販路開拓のために連携できる相手を募集したい！」など、農産物の6次化に興味のある方は、地域産業6次化を目指す皆さんの交流の場、「けんぼく6次化ミーティング」に、ぜひ御参加ください。

第1回交流会では、農産加工に関するコンサル専門家による基調講演や、専門の菓子職人（パティシエ）を招いての果実・アイスクリーム製造のデモンストレーション、参加者同士の交流会を予定しております。

### <開催日時>

平成26年12月9日（火） 13時30分～（13時開場）

### <場 所>

ウィル福島 コンベンションホールA  
（福島市鎌田字卸町10番の1）

### <内 容>

#### ■基調講演

「農産加工の流れと留意点 ～新しい商品開発の提案～」

講師：ホシザキ東北株式会社

コンサル室 室長 佐瀬正晃氏

#### ■実演研修・参加者交流会

果実を使った菓子・アイスクリーム製造のデモンストレーション

### <問い合わせ先>

県北農林事務所企画部（大甕、松田）

電話番号：024（535）0382

## ふくしまから はじめよう。『食』と「ふるさと」新生運動 LINE@アカウント開設！

新生運動のLINE@アカウントを開設しました！

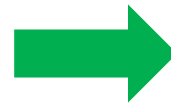
ふくしまの農林水産業に関するイベント情報、さまざまな取組についての情報をお届けします！

ぜひ、友だち登録してくださいね！

### <登録方法>

#### ■QRコードで追加

メニューの「友だち追加」で「QRコード」を選択し、こちらを読み込んでください。



#### ■検索して追加

メニューの「友だち追加」で「ID検索」を選択し、「@fff\_syoku\_furusato」と入力して検索してください。

特定のイベントに来場して  
友だち登録いただいた方に、  
数量限定でキビタンエコバッグを  
プレゼント中！！



皆様からの御意見・御要望など 様々な情報をお待ちしております。

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-535-0382

FAX 024-536-9590

電子メール [kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp)



ふくしまから  
はじめよう。